

東北大鬼城句会のこと

村 上 幹 也

先年の群馬県伊香保温泉での同期会の帰途、榛名湖周辺を見学した後、何人かの学友諸氏が鬼城草庵にも立ち寄られた。鬼城草庵は、平成3年に展示館を増設し、「村上鬼城記念館」として、俳人村上鬼城の書と俳画などの揮毫作品や正岡子規とか高濱虚子など鬼城所縁の文人の書簡などの展示を行っている。ちなみに鬼城は私の実母の父、つまりは母方の祖父というわけである。なにせ年金生活者が個人ですることなので細々と続けるほかは無いと割り切っているが、展示資料の99パーセントは実物なので全国の俳句愛好家や好事家には、態々群馬県の高崎まで訪ねて来る人々が後を断たないのは嬉しいことである。



昨年の秋には、神田の教育会館にある一ツ橋画廊で生誕140周年記念「村上鬼城俳書俳画展」を催した。場所が東京で、実行委員長を鬼城外孫の井田進也（大妻女子大学比較文化学部長）が務めたこともあって、比較文学研究者や出版関係者などが多く来場され、「今なぜ鬼城なのか」というあたりの問題提起も多少は波紋をよんだようであった。このとき顔を出してくれた武蔵好彦・平山隆一両氏などは、”義理がらみ“もあろうが、件の東北大鬼城句会なるものの創設の音頭取りに变身していくのである。

今年11月の同期会の準備を進めていく過程で、武蔵氏から教養人としての生き方についての感懐が示され、少し勉強もしなくてはということから、俳句を嗜もうという話が進んだ。私にカラオケ教室への参加をと言われたら困るのと同じで、これは大変と感じた人もいたろうに、まずは出発進行ということに決まり、7月4日（月）に第一回を開催する。場所は学士会館だが、手配をした武蔵氏の案内掲示用の名前が、「東北大鬼城句会」とあって、ネーミングだけは最初から一流である。なにしろ俳壇史的には、東大俳句会・京大俳句会・高商（一ツ橋）俳句会、三田俳句会etcなどは聞いているが、東北大はあまり知られていない。いやいたいた、われらが先輩では夏目漱石門下生で東北大に教師として赴任した小宮豊隆と、大正14年4月に東北大工学部に入学した後、昭和5年には夭折した「幻の俳人」芝不器男を挙げなくてはなるまい。

あなたなる夜雨の葛のあなたかな

不器男

一句は伊予松山からはるか北の仙台まで流れてきた遊子の嘆きの声である。



さてまだ湯気を立てているようなこの新米の俳句会もすでに年内に三回の句会をこなし、来年の1月27日（金）には第4回句会を催すことになったので、一応定着したものと見做し、この場を借りて各回の報告をしておこう。互選の多かった句、私の気に入った句など、基準はややアバウトである。

<第1回>句会 7月4日（月） 兼題 青田・雷・含羞草（おじぎそう）

房総の海に押し出す青田風

蓮圀地（れんいち）

（鈴木鍊一 法36卒）

含羞草愚直貫く生なりき

蓮圀地

遠耳の母のつぶやき日雷

蓮圀地

雷や子犬とびこむ腕の中

幸司

（小林幸司）

段丘の青田の先に父居ます
ふるさとは水旨くして青田かな
頑なに青田見張りて小百姓
遠雷やコード抜くべき抜かぬべき

隆一 (平山隆一)
俊知 (としつぐ) (合田俊知) 客員
谿聲 (けいせい) (村上幹也)
貞 (てい) (松本 貞)

<第2回>句会 9月22日(木)

名月や孫に聴かせる本生譚
娑婆氣か娑婆塞ぎかや穴惑
鶏鳴や暗雲裂きて野分呼ぶ
萩一枝添へてわが家の月見かな
湯くもりを拭けばみちのく萩の花
若き日の淡き心や萩の花
法師蟬己が出番を知ってをり

兼題 野分・萩・秋の蛇(穴惑)

隆一
隆一
隆一
仲安 (ちゅうあん) (中野安弘)
貞風 (ていふう) (松本 貞)
好彦 (武蔵好彦)
谿聲

<第3回>句会 11月22日(火)

はつしもを長靴でふむ幼き日
捨て去りし故郷や今お茶の花
泥鰯掘る心も変る世も変る
ファミレスの客に祝はれ七五三
玄奘の学びし基壇冬温し
達磨忌や雪舟筆の目を思ふ
主人亡き茶の花垣や昼の閑
裏ん川と呼びし用水泥鰯掘る
母の背で何の夢見る七五三
茶の花に触れ合ふ肩の二人かな
幾代の暖簾に生きて七五三

兼題 七五三・初霜・達磨忌・茶の花・泥鰯掘る

弁慶
貞風
貞風
隆一
隆一
隆一
谿聲
谿聲
仲安
蓮圀地
蓮圀地



国際俳句については、この夏米国ニューヨーク州ロチェスター市にある国立
聾工科大学の教官及び学生達が鬼城草庵を訪ねて来て当方と交歓した。また私
は『國文學』(學燈社刊) 2005年9月号に、『村上鬼城と俳画』という小文
を執筆したのでご笑覧いただければ幸いである。 以上